

事前評価個表

整理番号	19
------	----

地域（地区）名	おおたがわ 太田川	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	広島県	対象市町村	広島市ほか8市町
事業実施期間	R6年度～R10年度（5年間）	事業実施主体	県、市町、森林組合等

事業の概要・目的	<p>本地区は、広島県の西部に位置し、西は山口県、北は島根県と接しており、南は瀬戸内海に面している。地区の西部から北部にかけては標高 1,000m級の山が連なり、東部には 800 m以上の山々が瀬戸内海に面して連なっており、中国山地の高峰冠^{かんむりやま}山を源とする太田川が大小 72 の支流を集め広島湾に注いでいる。</p> <p>本地区の総面積 254 千 ha のうち、森林面積は 195 千 ha（森林率 77%）となっており、このうち民有林の森林面積は 180 千 ha であり、本地区の森林面積の 92%を占めている。民有林における人工林の面積は 71 千 ha（人工林率 40%）で、スギが 39%、ヒノキが 45%を占めている。人工林の年齢構成は 5～12 年齢が 57%と森林資源の本格的な利用期を迎えており、安定的な木材生産への期待の高まりとともに伐採量の増加が見込まれるが、7 年齢以下の人工林も 9%存在し、保育や間伐等が必要となっている。また、本地区内の林道延長は 1,088 kmで、公道等を含む林内路網密度は 17.3m/ha となっており、このほかに林道の支派線として森林作業道が整備されている。</p> <p>しかしながら本地区では、森林所有者の高齢化や後継者不足による森林施業への意欲の減退、造林事業の担い手不足等により、手入れの行き届いていない森林の増加や伐採後の更新が滞り、水源涵養機能や土砂流出防止機能等といった森林の有する公益的機能の発揮に支障を及ぼすことが懸念されている。</p> <p>このため、太田川地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づき、計画的な保育や間伐等の森林施業を推進するとともに、効率的な森林施業及び木材生産の基盤となる路網整備が必要となっている。</p> <p>本事業では、水源涵養機能や土砂流出防止機能等といった森林の有する公益的機能を総合的かつ高度に発揮させるため、人工造林や保育、間伐等の森林整備を推進するとともに、これらの効率的な実施及び木材等生産機能の維持増進を図るための路網整備を実施する。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：3,421ha</p> <p>人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、間伐等</p> <p>路網整備：2,912m</p> <p>林道開設</p> <p>総事業費：3,060,879 千円（税抜き 2,782,617 千円）</p>
費用便益分析結果	<p>B/C=5.12</p> <p>（総便益（B）=11,308,913 千円、総費用（C）=2,208,960 千円）</p>

評価結果	<p>必要性： 本地区は、森林資源が充実しており森林伐採量の増加が見込まれるとともに、保育が必要な森林を多く有しており、水源涵養機能や土砂流出防止機能等といった森林の有する公益的機能の維持増進を図るためには、適正な間伐等の実施が求められることから、事業の必要性が認められる。</p> <p>効率性： 路網整備により効果的かつ効率的な森林整備を推進することとしており、費用便益分析の結果からも、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性： 保育や間伐等の森林施業を実施することで、水源涵養機能や土砂流出防止機能等といった森林の有する公益的機能及び路網整備により安定的な木材生産の確保が期待されるため、事業の有効性が認められる。</p>
------	---

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：広島県

地域(地区)名：太田川

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	2,506,233	
	流域貯水便益	753,519	
	水質浄化便益	2,946,801	
山地保全便益	土砂流出防止便益	2,305,571	
環境保全便益	炭素固定便益	922,841	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	23,548	
	木材利用増進便益	12,744	
	木材生産確保・増進便益	1,074,021	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	896	
	森林整備促進便益	762,739	
総 便 益 (B)		11,308,913	
総 費 用 (C)		2,208,960	
費用便益比	$B \div C = \frac{11,308,913}{2,208,960} = 5.12$		

